

本多日生宛下施本用著書一覽

- 法華經自我偈講義 金 貳 拾 錢
拾部 特價 金 壹 圓(送料共)
 - 法華經要文 並製 金 參 拾 錢
上製 金 五 拾 錢
 - 教育勅語と思想問題 金 貳 拾 錢
拾部 特價 金 壹 圓(送料共)
 - 國民精神の涵養 金 五 錢
參拾部 特價 金 壹 圓(送料共)
 - 佛教の概要 金 五 錢
參拾部 特價 金 壹 圓(送料共)
 - うゐの奥山今日こえて(近刊)金貳拾錢
拾部 特價 金壹圓廿錢(送料共)
以上各送料一部金貳錢
- 右講讀希望者は左記へ申込んで下さい
- 名古屋市東區田代町城山
統 一 編 輯 局
電話本局東五四八七番
振替名古屋一〇八一七番

廣告料値上げ

發行部数は激増しました、關東震災の爲に印刷が名古屋に移つてから丁度二倍になりました。で、廣告料を値上げします。

一頁 金拾五圓 半頁 金九圓
表紙一頁 金貳拾圓 四分一頁 金五圓 (前納の事)

價定一統

一	冊	金 貳 拾 錢	送料五圓
半	冊	金 壹 圓 貳 拾 錢	送料共
一	ヶ	年	金 貳 圓 貳 拾 錢
一	ヶ	年	金 貳 圓 貳 拾 錢

送料共

大正十三年七月十七日印刷納本(第三百五十三號)
大正十三年八月一日發行

發行所 編輯所 印刷所 發行所
名古屋市東區千種町字五反田五二番地
東京府荏原郡品川町南品川四百十二番地
東京府荏原郡品川町南品川四百十二番地
名古屋市中區大須町字城山七十七番地
振替東京五一〇七一番
電話名古屋東五四八七番
振替名古屋一〇八一七番

目 次

國家の現状と日蓮教徒……………	本 多 日 生
哲學上より見たる排日問題……………	井 上 哲 次 郎
日蓮主義より見たる無量義經……………	井 村 日 成
法華經要文講義……………	本 多 日 生
記事報導……………	

第廿八年九月號



大僧正本多日生師著

うるの奥山今日こえて

いろは四十八文字、そこに如何の宗教を藏し、そこに如何の哲學を含める、如來一代五十年の説化八萬四千の法門は、簡約せられて四十八文字に有り、東洋六千年の文化は醇釀せられていろは歌に存す。本書は宗教界の權威本多日生師によつて、眞の人間觀、眞の生死觀、眞の解脱、眞の信仰、眞の道德を講説せられたるもの、釋尊の教に依つて光あり力ある人生の行路を進まんとする者は、必ず精讀せよ。

一部定價金貳拾錢 郵税金貳錢
施本用特價拾部金壹圓貳拾錢(送料共)

名古屋市東區田代町城山

發行所 統一編輯局
電話東五四八七番
振替名古屋一〇八一九番

國家の現状と日蓮教徒

本日の會合は我々日蓮教徒に於ては、極めて重大なる意義を有つと思ふ、本大會は立正大師門下各教團並に各團體の代表者間に、數回の準備會を開いて、各教團並に各團體聯盟の下に開催せられたのであり、而して大會の趣意は、我國の現状に就て、外は時局の重大なるに鑑み、内は立正安國の教旨に省みまして、我々日蓮教徒は少なくとも國民に先だつ事一日、早く醒めて之に善處せなければならぬ、其には先づ第一に異體同心の遺訓に基き、

門下各教團並に各團體の結束を堅くし、其上に
イ、國民精神作興の聖旨を服膺し、實踐窮行以て國力を充實する事。

顯本法華宗管長大僧正本多日生親下序
統合宗學林高等部學長僧正井村日成著 (既刊)

日蓮聖人の宗旨 本廣

目次

- 卷頭寫真版 一、日蓮聖人御眞筆大淺茶經 壹葉
- 第一章總說 一、御眞筆觀心本尊鈔の二節 壹葉
- 第二章本門の本尊 一、本尊の意義 二、本尊の體相 三、本尊の調和 第四章佛法
- 一、佛陀の意義 二、佛陀の體相 三、佛陀の總相 第四章佛法
- 一、方便の施設 二、三徳の教主 三、佛陀の體相 第四章佛法
- 三、久遠の顯本 四、教法の總要 第五章僧伽 一、僧伽の意義
- 四、未法の導師 第六章本門の題目 一、一言の妙旨 二、滅後の保持
- 一、三界の波瀾 二、理一 第八章發心 一、發心の發正 第七章人身
- 念三千 三、佛子の自覺 一、發心の發正 第七章人身
- 第九章修行 一、修行の要旨 二、三力合成 一、發心の發正 第七章人身
- 七、攝折の二門 二、信仰の三義 三、正助の二行 六、正法の護持
- 八、六根の攝護 九、處世の三願 第十、處世の三願 六、正法の護持
- 三、得益の種種 五、絶待の利益 第十一、本門の戒壇 一、内外の二教
- 四、相對の利益 六、所期の國土 第十二、戒壇の一致教
- 三、事戒と理戒 五、受戒の作法 七、因壇と果壇 第十二章 秘の一三
- 二、學解と實行 三、勸信の聖語

發行所 統一編輯局
東京淺草區北清島町
電話小石川七六六八番
振替口座東京一三二一九番

(上野自治會に於ける
日蓮教徒大會に臨みて)

本多日生

ロ、時局に對應する爲め、沈滞を戒め輕舉を慎み、以て知法思國の教風を發揚する事。
ハ、浮華放縱の弊、輕佻詭激の害を匡教する爲め、極力奮闘し、至心に法國興隆の祈願を行ふ事。

この三大要綱を嚴肅に實行し、宗教的信念と愛國的熱誠とを以て、立正安國の祖願を貫徹する爲めに、邁進致さねばならぬと思ふ。

此點に就て、門下僧俗の反省自覺と決心覺悟とを促す爲めに、この日蓮教徒大會は開かれ、適當なる宣言決議を爲して、我が日蓮教徒の態度を中外に發表する事と相成つた次第であります。今や時局に對

して諸種の會合は開かれて居るが、我々日蓮教徒の大會は他に對して遜色の無い、最も光輝あり實力ある會合なる事を、事實を以て證據立てねばなりません。日蓮教徒と稱する者は實に三百萬を超へて居るが、本日の會合はこれ等三百萬の教徒を代表し、而して茲に決議せらるゝ事は、全國は云ふまでもなく、朝鮮、滿洲、南洋、其他全世界に散在せる僧俗を策勵するものであり、隨つてこの大會は極めて重大なる意義を有するのである、斯る大會に於て所信を陳ぶる機會を得たるは、眞に衷心より欣幸とする所でありませぬ。

我國の現状は立正大師當時の有様と對比するに、頗る相似て居る點が多いのである、

一、人心の頹廢せる點に於て、

をせられたので、一種特色を有する思想界の偉人であり、即ち護法の聖者なると共に愛國慨世の志士である、若しその法統を紹ぐ者にして、今日の國狀を座視するならば、全くその本領を没却せる痴漢と言はれても、否むことは出来ないのである。

立正大師の護法愛國の赤誠は、立正安國又は知法思國の法幢と成つて立てられたのである、立正大師は宗教的信念に於て、精神生活の妙諦を證得し、即ち歡喜法悦に生きて、如何なる迫害多難の中にも、曾て一たびも落膽せしこと無く、否法悦の中より廣大なる願行を立て、一面に於て慈悲濟度の淨業に向つて精勵せられたが、更に護法愛國の大願を懐いて、造次にも之を忘れしことはない。

其の立正と云ひ知法と云ふは何ぞ、他なし法華經

二、順逆の理りを紊りつゝある點に於て、
三、利己心の爲めに國家觀を誤りつゝある點に於て、

四、學者宗教家の大部分が眠れる點に於て、
五、自界叛逆難の起らんとする點に於て、
六、天災の頻りに至れる點に於て、
七、他國侵逼難の兆ある點に於て、
尙ほ仔細に吟味すれば類似の點の餘りに多きに驚かざるを得ないのである、右の内一より五までは内憂に屬し、六は天災、七は外患である。その内憂天災外患の三つに於て、國家の現状と立正大師の當時と一々に酷似して居るのは、實に不思議であります。

立正大師は當時の國狀を視て痛憤禁せず、眠れる爲政者と國民とに對して、覺醒を促すべく大師子吼の開顯統一の主義に基き、我國文化の正統を闡明し、國民精神指導の基準を確立し、決して一人一己の放縱なる意思に放任しないのである、極めて嚴密なる調査研究の上に於て、法華經の大教義に絶対の信仰を捧げ、之を以て思想信仰の最高指針と爲し、之を國家の明教として確立せよと云ふのである。

若し然らざれば、雜多の思想信仰は徒らに分裂の弊に陥り、國民はその適從する所を失ひ、思想動搖し、民心乖離し、遂に國力を失墜して、國家の使命を遂行する能はざるを懼れたのである。立正安國論に云く、

汝早改ニ信仰寸心ヲ速ニ歸ニ實業ノ一善ニ

曾谷鈔に云く、

肇公翻經記に云く、大師須臾耶蘇摩左手に法華經を持し、右手に鳩摩羅什の頂を摩で、授與して

云く、佛日西に入つて遺耀將に東に及ばんとす、此の經典東北に縁あり、汝慎んで傳弘せよと云云、予此の記文を拜見して、兩眼瀧の如く一身喜を徧くす、此の經典東北に縁ありとは、西天月氏國は未申の方、日本國は丑寅の方なり、天竺に於て東北に縁ありとは、豈日本國にあらずや。

斯の如く安國論には、速に實乘の一善に歸せよと云ひ、曾谷鈔には法國の冥合に關して、兩眼瀧の如しと喜びたまふた、この眞意を分明に牒得すべきであります。

この法國冥合の眞意は、

- 一は以て我國をして轉輪聖王の國たらしめ理想的に世界第一の王國たらしめ、
- 一は以て我國の興隆に伴ふて法華經を四海に廣布せしめ、

は世界に及んで、最も公正に最も理想的に最も倫理的に、各々其の國の福利を均沾せしめ、全世界を擧げて大平和大同の文化を實現するのである。

此轉輪聖王に關する解説は、佛敎を一貫せる大精神であり、大小乘に亘りて到る處に説示せられた、佛敎の有する文化指導の大理想である。井上哲次郎博士はカントの永久平和論は法華經に説かれた通一佛士の思想に外ならずと爲し、愉快なる見解を發表せられ、吾人は多大の興味を感じた所であるが、この佛敎を一貫せる輪王の解説は、全く永久平和の大理想であり、而も武力の絶滅を前提とするにあらずして、寧ろ正義と威力とを兼備せる永久平和論なる點に優越を見るべきである。

カントは聖行の一に局せる平和論なるも、佛敎は聖行と病行とを兼ねたる平和論である、若し

彼此相頼り相扶けて優秀なる文化を建設せんとするので、護法と愛國とを歸一したる大獅子吼であり、是れが眞乎の我國不易の國是であり、日本國民の最高理想であると確信せられたのである。

我が日本國をして轉輪聖王の國たらしむるとは、轉輪聖王の特質に最も重大なるものが二つある、一は法を重んじ法を護る事で、一は之を護るに於て優越なる威力を有する事である、輪王は七寶を失ふ事あるも以て憂と爲さず、土地を失ふ事あるも以て憂と爲さず、法を以て國家の生命と爲すのである、今云ふ法とは道義德行の規範を指す、即ち十善業の如きを云ふのである、然れども法を護る爲に絶大な威力を兼備するが故に、如何なる力に對しても打ち勝つを得るのである。その威徳と法を重んずる良風

人生に病行を要せざるの時ありとせば、カントの説は實現せらるべきも、斷じて人生に病行不要の時は來らざるべし、其は人間は煩惱を全滅する能はざるが故に、若し人間界に於て一切の煩惱無きに至らば、其は人界にあらずして佛國なり、佛國に於ては永久平和論の如きは全然不要の事に屬す、佛國は常樂我淨の境界であり、怨恨憎嫉は根絶せらるゝが故である。

我國に佛敎渡來の當初、聖德太子に由つて篤敬三寶の憲法は發布せられた、太子は攝政の位に即かせられ、佛法を以て鎮護國家の大法と定められたが、其の採用の理由を見ると、憲法發布の序に「天竺は輪王の佛典」と書かれて居る、又行基傳敎等の諸師を初め、各宗具眼の高僧は何れも佛法を以て、日本

國家の理想を闡明し翼賛する寶典なりとして、法國冥合の實現を希はざる人はない、就中立正大師は此の大精神を最も鮮明に且つ徹底的に發揮せられたので、この立正大師の立正安國知法思國の大主張に對しては、具眼の人士は反對すべきではないのである。難易鈔に

佛法は躰の如く世間は影の如し、躰曲れば影斜なり。

と示されたのは、法を以て國家の生命とすることを、教へられた聖語であります。

法國冥合の第二の意義は、日本國の興隆を道はして法華經の廣宣流布を願はれたのであるが、その意は、精神的の文化は、之を擁護する威力を伴はざれば、縱令一時は榮ふることありとも、國家の興隆變

化即ち佛教も、儒教も、惟神道も、其他東洋に發育したる善良なる精神的文化は、殆んど凌辱せられ粉砕せられて、遂に衰滅の悲運を免がるゝことは出来ないであらう。之に反して我が日本國が興隆して、轉輪聖王の國と成り、道を重んじ道を盛んにして、全世界に倫理的の公正と理想とを實現するに至らば、東洋の精神的文化は決して凌辱せられ、粉砕せらるゝこと無く、隨つて法華經は衰滅するものではない、否轉輪聖王の威徳と共に全世界をして法華經を尊信せしむるに至り、廣宣流布の春を迎ふることが出来るのである。

立正大師は斯くの如きの法國冥合の觀念から、立正安國知法思國の法幢を掲げて、大獅子吼したまふたのである。

動に由つて、重大なる影響を受くるのである、國家の興廢は精神的文化の如何に依り、精神的文化の盛衰は國家興廢の如何に由る、相互に因と成り果と成るので、この微妙の關係を明瞭に意識し、之を最も簡明適切に唱道し、國の昌ふるは法の力、法の弘まるとは國の力なりとの信念に立つたのが、即ち立正大師であります。故に立正安國論に、

國亡び人滅びなば佛をば誰か崇むべき、法をば誰か信すべきや、先づ國家を祈りて、須く佛法を立てし。

同勸文由來に、

國土を毀ち壞らば佛法の衰微知るべきなり。と示されたので、若し我が日本國が他國の爲に壓迫せられて、衰亡の厄を蒙むることありとせば、延いて亞細亞は復起つ能はざるに至り、而して東洋の文

この立正安國知法思國の法幢を擁護して、内には法定まり、國澄めりの春を迎へ、外には日は東より出で、西を照すの抱負を實現し、堂々として法國の興隆を期するのが、我々日蓮教徒の本領であり、是れ即ち立正大師の遺教に忠實なる所以であります。立正大師は「我が願に力を副へよ」と依頼し、又「和黨共二陣三陣につゞいて、迦葉阿難にも勝れ天台傳教にも超へよかし」と警策せられしは、この大願に就てであります。

大涅槃經に「大乘の教を弘むる者にして、獅子の圍繞する所とならざるあり」と誡められたが、大乘の中の大乘、三説超過の妙典を弘むる者が、土鼠や狸の如き者、即ち小なる自利心、物慾惑溺の者共を集めて圍繞者と爲し、法を知り國を思ふ志士仁人、

即ち獅子の圍繞する所とならざれば、眞に慚愧に堪へぬ次第であります。立正大師はこの涅槃の遺戒に基き、「獅子王の如き心を持つて居る者佛に成るべし」と示されたが、願くは今日の日蓮教徒はこの遺戒に醒めて、濁大なる抱負と剛健なる氣象とを養ひ、法國の爲めに大膽に奮闘致したいのであります。

利己心と結び付けた護法心愛國心を新解釋として誇る人がある、これは強きに似て其實極めて弱い、故に立正大師は身軽法重不信身命を力説し、聖賢は「生を捨て、義を取るものなり」と教へたまふたのである。

現代に高調せらるゝ諸種の學說や思想の中には、毒を雜へたる蜜の如く、少しく時間を経過すると、その害毒に堪へざるものが多い、是れ即ち小人の道

なるが故である。中庸に「小人の道は的然として日に亡ぶ、君子の道は闐然として日に章かなり」とあるが、法華經は君子の道なり、日本國民の奉持すべき國民精神は、君子の道であらねばならない。

我々日蓮教徒は國家の現狀頗る立正大師の當年に似たるものあるを思ひ、内憂天災外患の競ひ起るを知つて、之に對應する決心覺悟を定めねばならぬ、少なくとも初めに記した三大要綱を嚴肅に實行して、日蓮教徒の本領に背かぬやう致さねばならぬ、終りに法國の興隆を祈願する爲めに、諸君と共に至心に玄題を三唱いたしたいと存じます、一同唱和あらんことを。

南無妙法蓮華經、々々、々々。

(完)

哲學上より見たる排日問題

文學博士 井上哲次郎

只今佐藤中將の熱烈なる御講演がありました、又私の直ぐ後に別の佐藤中將が、定めて又有益な、さうして諸君を昂奮せしむるやうな御講演をせられることと思ひます。ごちらも中將の方でありまして私とは餘程職務が違つて居ります。私は平素學術に従事して居るのであります、其學術的の立場からして、即ち學者として、今日の時局をどう云ふ風に見るか云ふ事を、概略掻い摘んでお話ししたいと思います。私は敢て感情に依つて煽動することは致しませぬ、私は私の信する所を少しお話しして、それで以て私の責を塞ぎたいと思ひます。

なかく今日の時局は重大であります。それで先づ第一に注意すべき事は、今回の米國の排日と云ふ事に付ては實に私は驚きます。米國は排日と云ふ事を從來からやつて來て居りましたけれども、あのやうに、上下議院に於て大多數を以て決議すると云ふあのやうな排日的感情が横はつて居る事は思ひも依らなかつたのであります。米國に於ては大分新聞などに於て、議院の排日に反對して居るものもあるし又個人として排日に對する反對運動をして居る人もあるやうであるけれども、上下兩院の議員がこの様に結束して排日を決議すると云ふ事は、確に是は米國の上下に漲つて居る思想感情であるに相違ないと思ふのであります。

就きましては、是は吾々學者としては此問題に對してはなかく輕卒な事は言へないのでありますが、此排日と云ふ事は悲しむべき事に相違ありません。非常には我が日本國民に取つては侮辱である。米國から非常なる侮辱を受けたのでありまして、此侮辱は決して忘るべからざる事であると思ふ。支那人は、彼の二十一箇條に對して國耻日なるものを設けて、頻に日本に對して國辱を雪ぐ事を圖つて居るやうでありますけれども、我が日本も實に七月一日を米國に對しての國耻日として定めて宜いかと思ふのであります。それで是は、毎年七月一日を國耻日として何か運動をしてそれを紀念するやうにしたら宜からう。さうすれば必らず此國辱を將來雪ぎ得る事になるに相違がないから、何等かさう云ふ方法を設ける事が必要であると思ふ。

が這入りまして、大いに彼等を警醒して、彼の舞踏會を滅茶々にしたと云ふことであります、實に痛快限りなき次第であります。是は諸君にお話しなればならぬ。この舞踏會と云ふものが、正しく行はれたならばそれ程には感じないでありませうが、近來日本に行はれて居る所の舞踏會なるものは餘程日本の風俗を紊して居つたのであります。外國人と云へば神様のやうに信ずると云ふことは間違であります。非常に悪い外國人が來て、日本の貴族を狙つて居つて、彼等は、華族或は上流からして中流に至るまで、日本の婦人と云ふものは外國人の思ふが儘になると信じて居つたのであります。それが爲に家庭には風波を起しまして家庭を紊したことは非常なものであると云ふことは、唯新聞紙に現れただけでない、新聞紙上に現れたのは偶々其甚しいのが現れ

今回の事は、是は我國に取つては非常なる耻辱である。併ながら此耻辱は、米國は我が日本にさう云ふ耻辱を與へたのであるが、是は我が國民に取つて此爲に非常に良い事もあつた。それは近代の日本が餘りに米國かぶれして、餘程日本の國情が不健全な状態になつて居つた。是が此儘で行けば日本は餘程危殆に瀕して、國運を危くするやうな状態になつて居つた所に、此國辱を受けました爲に、此排日と云ふ非常に日本人の感情を害するやうなひどい事がありません。却つて是が國民をして緊縮せしめ、反省せしむる非常に有力なる機會となつたことは寧ろ喜ぶべきであると思ふ。

今朝の新聞を読んで私も大いに感したのでありますが、昨晚帝國ホテルに非常に盛大なる舞踏會を開いて居りました、所がそこへ我が日本の壯漢數十人の背後にはさう云ふ事實は澤山ある。此の日本をして亡國に導く所の淫風に一撃を喰はしたと云ふことは却つて是は大いに喜ぶべき事でありまして、我が日本帝國が危ない方面に向ひつゝありましたのを茲に引留めまして、日本國民をして覺醒せしめたのは此排日の結果であると思ふ。此點に付ては米國に感謝しなければならぬ。米國は日本人を助けようと思つてやつたのではないのであります、米國の排日の動機は日本國民を輕蔑した考に出でたことは明かでありませうけれども、併ながら却つて亦日本國民に取つては覺醒の機會を與へたことは確かである。日本は維新以來日清、日露の兩戰役を経て段々と順境になつて來て居ります、思ふが儘になつて來て居ります。さうして世界の大戦が起りましたけれども、是は遠方に起つたのでありまして、日本も之

に参加しましたけれども、餘り此爲に苦しい目には遣はない、却つてあの爲に成金になつたやうなことで、段々順境になつて来て居つた爲に、次第に氣分の緩んで来た所もあり、僞つて来た所もあり、風俗も頹廢して来た所もあり、又思想上に於ても左傾的思想が非常に流行して日本の國運を危くするやうな虞が大いにあつたのであります。けれども昨日の爲に日本國民は肅然として態度を改めて反省するの機會を得たのは大いに欣ぶべき事であると云はなければならぬ。

左様に日本の國民に取つて良い所は確にあるが、惜て然らば此際どうしたら宜いか。戦争をするに云ふやうな事を直ちに計畫すべきであるかどうか、茲は大いに考へて見なければならぬ。吾々は學者でありますから、妄に煽動は致しませぬ、私の信する所

を述べて見たいと思ふ。

日本は日清戦争以來大抵十年目に戦争をやつて居る。二十七八年の戦役、三十七八年の戦役、それから又十年ばかり経つて世界大戦となつてそれに参加を致しました。それからやがて十年になりつゝあるのであります、そこに何等か起つて來さうに思ふ場合でありますから、尙更吾々は慎重なる態度を執らなければならぬ。そこでどうしたら宜いか、茲に一つ皆なが今日注意して居るのは、亞細亞民族の結合と云ふことであります。之は既に三四年前にダツタン人とかベルヂスタン人とか、色々の人が日本に來ましたり、或は亞細亞民族の結合を論じた雜誌などを送つたりして來たことがあります。けれども當時は世間は非常に冷かであつて新聞などでも一向書かなかつたやうなことであります。さうして諸民

族の或る意味に於ける代表者が來まして會合を催したけれども、乘氣がしなくていつの間にか消え失せてしまつた形であります。是が今日であつたならば熱烈なる態度を以て迎へるでありませうけれども、其當時は、亞細亞民族の會合を催した人が大變冷かなる待遇を受けたのであります。

今日方々に於て亞細亞民族の結合と云ふやうな事が叫ばれて居りますが、是はどう云ふものであるか。此亞細亞民族の結合も或る意味に於てはなかなか面白い。殊に現今は、支那は餘程日本に傾いて來たと云ふ事を、最近支那から歸られた服部博士などは言つて居られる。支那は最近亞米利加を稍々厭ふて居る所に、今回の排日問題の爲に、支那民族の自決に影響しまして、俄然として日本に心を傾けるやうになつて來たと云ふ事を語られて居る。是等は我

が日本國民をして反省せしむるの機會となつたのみならず、亞細亞民族を結合せしむる一の力となつたのである、是は亦意外の副産物であります。

加之、諸君は既に知悉して居られる事と思ひますが、印度人は餘程日本に對して注意を拂つて居る。日本を東方亞細亞民族の盟主と仰ぐと云ふやうな考へがあるのであります。さうして實は印度は英國からして獨立しようとして居るのでありますけれども、なか／＼うまく行かないので、果して成功するや否や疑はしい状態にありました、日露戦争後非常に盛返して來ました。何故盛返つて來たかと言ふと、日本が大國露西亞と戦争をして打勝つ程であるならば、吾々印度民族も努力すれば必ずしも不成功になるものでないと思ふ強い自信を生じまして、あれから印度民族が、英國の制裁を離れて獨立すると云ふ

精神が餘程強められて来た事は確かであります。是は大いに注意すべき事でありませぬ。況んや茲に、新聞にも屢々現れて来て居りまするが、印度にマハトマガンデーと云ふ英傑を生じました。私はガンデーの事は知らなかつたが、段々読んで見るとなかなか偉い人である。元來ガンデーと云ふ人は英國崇拜の人で、たしか英國から勳章を貰つたと思ふ。所が、彼の世界大戦の時に、或る権利を印度民族に與へると云ふ約束の下に、英國の命令に依つて多數の軍隊を歐羅巴に出した、さうして印度の軍隊はなかく能く戦つたさうであります。さうして凱旋して歸りました所が、英國は或る権利を與へるからと云ふ約束の下に印度が出兵したのであるにも拘らず、其約束を履行しないから、ガンデーは、英國民を偽善の國民であると言つて大いに憤慨して、印度民

族を奮醒して印度の獨立を計畫致したのである。其爲に牢獄に打込まれ、まだ生存して居るやうでありますけれども、非常な艱難に遭遇して居るのであります。併し印度民族は此ガンデーを神の如く救世主の如くに崇拜して居るやうであります。斯様な次第でありますから、印度とても、いざ亞細亞民族の大結合となれば必らず此方に向つて來るに相違ない。況んや現在タゴールのやうな印度の有力なる思想家が日本に這入つて来て居る。茲にこれ程の意味を持つて來たか分りませぬが、此タゴールと云ふ人は東洋主義の人であります。西洋文明が東洋を汚す、必らず東洋民族が蹶起して西洋文化の汚れを受けないやうにしなければならぬ、此任務を負ふ者は日本民族でなければならぬ、と斯うタゴールは、この前我が帝大に於て講演をされましたのであ

りまするが、汚れたる西洋の文化が這入つて來て東洋の非常に優美な文化を汚してしまふ、此優美なる東洋の文化の粹を世界に發揮する者は我が日本民族より他には無い、どうしても日本民族が獨立して國威を發揚して居るのであるから、此民族に此重大なる任務を囑しなければならぬと云ふのがタゴールの精神である。其タゴールが今や日本に來て居る。其時の精神と今日の精神と變らう筈はないのであります。必らず印度は、亞細亞民族の結合一致に共鳴同感して這入つて來るに相違ないと思ひます。支那印度には餘程共鳴者があらうと思ひます。況んや其他にダツタン人、蒙古人、ベルヂスタン人、土耳其人の中には矢張り同じやうな感じを懷いて居る者があるやうに思ふ。即ち先刻申しましたやうに、數年前この東京に於てさう云ふ事を頻りに計畫したの

である。然るに時を得ずして不成功に了つたのであります。然るに時を得ずして不成功に了つたのでありますけれども、我が日本國民が一度亞細亞民族の結合一致、若くは有色民族の統一と云ふ事を絶叫したならば、翕然として之に集まつて來ること、思ふ。但し此亞細亞民族の結合一致と云ふ事は餘程難かしい事であつてなかく容易に計畫は出來ませぬが、併し必ずしも不可能であるとは申されませぬ。それに諸君に申して置きますが、排日と云ふ事は、是は總ての有色民族を排すると云ふ一の徴候であります。既に印度人の移住を排斥し、支那人の移住を排斥した後であります、さうして今度最後に日本人の移住を排斥したのであります、いつでも問題が日本人に關して最後の問題となつて來るのであります。日本國民が總ての有色人種中最も優秀なる地位を占めて居るが爲であります。それでありませぬ

らごうしても茲に重大なる問題が關係して居ります。印度人を排斥し支那人を排斥し、さうして日本人を排斥する。斯うなれば是は總ての有色人種に對する拒絶的態度である。亞米利加には黒人が居る、此黒人は亞米利加人が自ら入れたのであるから仕方がない。但し彼等は、亞米利加に於ては低級の取扱を受けて居ります。彼等は北部に於ては白人と同じ學校に入つて居るのでありますけれども、それは黒人が少いからで、南の方に於ては白人の學校には黒人は行く事は出来ない、又白人の行く料理屋には北の方と雖も黒人は行く事が出来ないであります。色々の點に於て黒人は異なる待遇を受けて居る。さうして黒人は矢張り白人と同様の税を拂つて居る。のみならず彼の世界大戦の時に黒人は澤山出征したのであります。——是は大切な事で、事實であります。

んで居るのであります。亞米利加の内地にはリンチと稱して黒人は屢々私刑を被るのであります。のみならず平常の待遇は餘程違つて居る、米國に於ては特殊部落と云ふやうな風に劣等なる待遇を受けて居るやうな次第であります。

斯ふ云ふやうな譯で、米國人は段々有色人種を排斥して來たのであります。さうするに是は大變大きな問題であるに云ふ事を考へなければならぬ。英國の領土に於ても矢張り有色人種を排斥して居ります。濠洲に於ては日本人の移住する事は絶対に禁止して居ります。又印度などにも無論移住する事は出来ません。それから亞弗利加に英國の領土がありますが、此處にも日本人は行く事は出来ない、商人などはなか／＼上陸が出来ないと云つて歸つて來る。さうして甚しきに至つては印度人が英國の殖民地たる亞

すからお話して置きますが、諸君も御承知の通り、ベルダンと云ふのは、非常な戦跡でありまして、獨逸は五十萬の兵を彼處に犠牲にしたと稱せられる位の所でありまして、獨逸の皇太子が自ら軍隊を指揮して戦つた所でありまして。私も一昨年参りまして親しく戦跡を視て参りました。所がある場所に往きますと、數萬の亞米利加兵の死んだ墓標がある。すつと廣い所で見ると、其數は今忘れませんが、兎に角數萬の墓標が列んで居ります。それで私は、こんなに澤山亞米利加兵が死んだのか、こんなに亞米利加兵が死んだとは考へなかつたがと思つて、段々聞いて見ました所が、是が殆ど黒人の墓標であります。戦争の時には先づ眞つ先に黒人が進んで其後から白人が行くのであります、それで其やうに黒人が澤山死

弗利加に行く事が出来ない。今の印度は英國の領土であります、即ち廣く言へば印度人は英國の國民である、其英國の國民である所の印度人が英國の殖民地である亞弗利加に行く事を禁せられて居る。それでありまして非常に印度人は憤慨して居る。斯様にして英國も有色人種を排斥して居る。尤も是は有色人種ばかりではないやうでありますけれども、兎に角世界に廣い領土を持つて而も有色人種を排斥して居る。所が今度米國は、あのやうな廣い領土を有して有色人種を排斥すると云ふ事になると、總て有色人種は、狭ひ範圍に限定されて永久に此の世界に横行濫歩することは次第に難かしくなるのであります。是は今度其端緒が開かれたのであります。此際何とかしなければ永久に有色人種は次第に押込められるやうになります。

是は大事なことでありまして、一時の事だけでは
ない。近眼者流は目の前の事だけ見て居るけれども、
吾々學者は遠き將來を考へて居るのであります。今
度の排日と云ふことは一時の事ではない、永久の問
題である、さうして是は人道問題である。其人道問
題と云ふのはどう云ふ意味かと言ふと、總ての人類
を平等に見ると云ふことになれば、日本人の移住を
許して白人と對等に見ると云ふことでなければなら
ぬ。色の黄白に拘らず全然人類を平等に見ると云ふ
ことは、正義人道の觀念から當然來る譯であります
けれども、日本人を白人と同様に移住することを許
さない、白人は皆移住を許すのである。之も段々限
定するか知れませぬけれども、是迄はさう云ふこと
なしに、獨逸人でも露西亞人でも伊太利人でも、白
人は皆移住を許して居るのであります。さうして總

合を獎勵しなかつたのは、吾々有色人種から人種戦、
人種闘争と云ふやうな事の端を開けば、白人は尙ほ
結合一致して有色人種を拒絶する態度を執ると云ふ
虞があつたから、吾々有色人種から敢て率先して人
種闘争の端を開くやうなことをしなかつたのである
と考へる。所が今度は米國の方から排日と事ふ事を
斷行して、人種戦の起る端緒を開いたのは實に悲し
むべきことである。どうも將來事に依ると人種戦が
起つて、世界を慘憺たる巷に化するのではなからう
かと考へる。この間の世界大戦は人種闘争ではな
つたのである。けれども若し人種闘争が起れば餘程
是は恐ろしい事になる。即ち日本人、支那人、印度
人其他の亞細亞民族が結合一致して白人に當ると云
ふことになれば、其他の有色人種は皆此亞細亞民族
に同情するに相違ない。其結合はなか／＼容易では

ての有色人種は、この亞米利加のやうな廣い領土か
らして拒絶されると云ふことになる、永久に有色
人種は頭が擧げられない、次第々々に狭い所に押籠めら
れると同じことである。人口は段々増すけれども廣
い世界に移住することは出來ない。何處に往つても
垣根をして、良い所は皆壞かれてしまふやうな有様
である。

人類を平等と見るのでなければ世界の平和は得ら
れませぬ。總ての人類を平等と見るか不平等と見る
か、不平等と見れば茲に恐ろしい人種戦と云ふもの
を考へなければならぬ、人種闘争と云ふ事が起つて
來る虞がある。人種闘争と云ふやうな事は餘り願は
しい事ではありませぬ。我が日本の人が、亞細亞民
族の結合と云ふやうな事に極めて冷淡であつたのは
何處から動機が來たかと言ふと、其亞細亞民族の結

ないけれども、假にさう云ふ事が起つて來たとすれ
ば、是はこの間の世界大戦より恐ろしい事になる。
何故ならば、あの世界大戦のやうな、國家の利害か
ら起つたのは一時の戦争で了つてしまふけれども、
人種間の闘争は一時的のものでない、人種は容易に
變るものでない、非常に永い歲月の間には變ります
けれども、容易に變るものでないからして、一度人
種戦が起ると、是は永久の戦争と見なければならぬ
のである。是は非常に恐ろしい事になる、だから此
人種闘争と云ふことは成べく避けなければならぬこ
こになる次第であります。けれども白人種の方から、
白人種以外の者は總て拒絶すると云ふ態度を執つて
來ますと、今は起らなくても次第々々に有色人種
が困つた境遇に陥れられたならば、窮すれば必
らず何とかしなければならぬことになつて、終には

人種戦と云ふことにならぬとも限らぬのである。人種戦となれば誰が責任を負ふかと云へば今度は米國が其責任を負はなければならぬ。

歐羅巴の學者の中にも、白人と對抗する者は蒙古人のみ、斯う言つて居る。其蒙古人の中で、獨立の態度を執つて世界に優秀なる地位を占めて居るものに日本國民であることは言ふまでもない。印度にはガンデー、タゴールのやうな偉い人もありますが、併し亡國でありまして獨立の權利が無い。支那は獨立して居りますけれども、革命以來動亂熄むことなく、ごうも能く政治が行届かない、統一がない、全くないとは申しませぬけれども、ごうも面白いなやうな事である。支那は世界の強國の間に伍して居らぬが、日本は兎に角世界の五大強國の中に伍して居る。有色人種にして世界の強國の仲間入をして居る

實に危ない事でありました。斯う云ふ事がないと日本魂は次第に死んだのでありますが、あのやうな舞踏會を銅鑼で以て鎮壓するやうなことがありまして、なかく、痛快な方面も確にあると思ふ。幸なる哉日本魂未だ滅びず、何處かに元氣が残つて居る、此際大いに元氣を發揚して國民の精神を發興せしむるのでなければ日本は本當に危ないのであります。

そこで私は斯う思ふ。此會場は統一閣であつて、豫て本多日生師の日蓮主義を説かるゝ所でありませぬが、日蓮主義から言つても此問題を解決するに極めて大切な事があると思ふ。近頃は能く永久の平和と云ふ事を申します。カントの永久平和論と云ふ論文がありますが、其カントの目的は何かと云ふと、世界は最後には聯邦制度の如きものになつて永久平和の社會状態にならなければならぬ、それが人類

者は、我が日本民族より他に無い。此日本民族が非常な侮辱を受けて此儘泣殺入をするやうでは、日本國民は意氣地の無い國民であること云はなければならぬ。

所が近來日本國民にも意氣地の無くなつた者が出來て、あのやうな侮辱を受けても平氣で居る者があつて、あれごも幸に日本魂未だ滅せず、あちらこちらに、元氣熾んな、氣概ある精神を以て、對米の思想感情を發揮して居る人がありますから、是で以て餘程眼が醒めるであらう。私は煽動はしませぬけれども、併ながら、假に煽動的の演説を爲す者がありごしても、それが大いに反響を起すと云ふのは、何處かに矢張りまだ日本魂の滅せざる所がある、それであのやうな侮辱を受けて此儘では居れぬと云ふやうな日本男兒の元氣が何處かに残つて居ると思ふ。

の終局の目的である。そこで其カントの永久平和論の影響がありまして、カントの生誕日には永久平和の運動などを一部ではしたのでありますが、成程人類は永久の平和を目的としなければならぬ、其永久平和の叫びはカントよりも先に法華經にある。法華經にあることを知らずして、唯カントだけの永久平和を世間では稱へて居るのであります。斯様に世の中は燈臺下暗しになつて居る、法華經にはどうあるか、精しい事は述べませぬが、法華經の中の寶塔品、神力品の中に佛國土の豫言がしてある。一切の者が佛國土に住すると云ふ事が大乘佛教の理想であります。佛國土とは何か、佛と云ふのは人格者であります。悉くの人間が人格者にならなければ永久の平和は得られるものでない。所が人間には、立派な菩提心がありますけれども、之を亦佛性と言つても宜

しいが、佛のやうな立派な性質が人にはあるけれども、併ながら又一方には根本悪があると云ふ事をカントが説いて居る。カントが説いて居るばかりでなくそれは亦佛教にも説いて居る。それは天台の教理にあるので天台の教理では性惡説と云つて根本悪を説いて居る。此根本悪があるが爲に永久の平和に直接に向ふことが難かしいのである。人間の心の中には意地の悪い所がある、人を嫉み、人を嘲り、人の苦痛を喜び、人の物を奪ふと云ふやうな悪いものがある。此根本悪が米國の上下に漲つて居る。詰り耕日など、云ふ事は根本悪の然らしむる所である。此根本悪を退治しなければ決して永久の平和とはならない。

カントの根本悪を知つて佛教にも此根本悪を説いて居ることを知らない。非常に世の中は變になつてには永久の平和が實現する。無政府でも無國家でも宜い、法律も要らない、刑法も要らない。所がなかなか意地の悪い者が多いので、國家があつても政府があつても、法律があつても悪い事をする者がある。惡の塊り、惡の結晶と云ふものがある、其精神の底を叩けば非常に意地の悪いものである。米國に於ては近來殊にそれがひどい。

あの自由平等、正義人道を標榜して居る所の米國に於て、あのやうになつて來たのは米國々民の墮落である。現にウイルソンは、世界大戦が了ると正義人道を標榜して、其結果國際聯盟を結んだのであります。併ながらウイルソン自身は、米國に歸つて非常に苦められた。何の爲に苦められたか、根本惡の爲である。さうして終に末路大いに振はずして亡くなりましたが、實に根本惡と云ふものが米國に根

居りまして、却つて西洋の學者が東洋の佛書などを研究して居る。東洋の學者は東洋の佛典などは碌に讀まない、まるで燈臺下暗しである、けれども私は兩方讀んで居る、なか／＼抜からぬ積りであります。一日も休みはしない、斷えず勉強をして居る、それであるからそれを了解することが出来る。實はカントの説いた事は佛教にある。立派な人格者ばかりの世の中にならなければ、孔子のやうな人、釋迦のやうな人ばかりにならなければ世の中は永久に平和になるものではない。悪い奴が澤山あつて、胸の中に變な惡思想を懷いて居る、それがなか／＼取れない。カントも到底根本悪は取れてしまはないと言つて居るが、實に社會はさう云ふものである。さう云ふ悪いものがあつて決して永久の平和は實現されない。人々が皆立派な考を持つて居つたならば世界

強く横はつて居ると云ふことが分る。けれども此根本惡は米國にはかりあるのではない、日本にもなかなかあるからして油斷はならぬ。

そこで此根本惡にはどうしても打勝つて行かなければならぬが、打勝つにはどうしても亦茲に考へなければならぬ。人種戰と云ふやうな事は、それは已むを得なければ致さんければならぬ。勢くとも白人を威嚇するには、有色人種の結合と云ふ事も或は有効であるかも知れない。けれども亦、有色人種の中には餘り頼み甲斐のないものも大分ある。それを買被つてはいけない。印度人、支那人、是は良い方である、其他は却つて邪魔になると云ふものがありま

すから、餘り有色人種だと言つて買被つてやると非常に失敗することがある。

近頃日本に於ては階級戰と云ふ事を言つて居りま

するが、階級戦よりは人種戦の方が意味が重大である。階級戦と云ふのは有産階級對無産階級、無産階級對有産階級の戦であり、是はさう嚴密ではない。無産階級の者でも能く働けば有産階級になります。有産階級の者でも懶けて遊んで居れば無産階級になる。例を出せば幾らでもある。立派な華族さんであつたのが放蕩をして労働者になつたと云ふ者もある。労働者でも勉強して働けば立派な有産階級になれる。今は立派な男爵となつて、堂々たる有産階級であるが、元は純然たる労働者であると云ふ事は決して尠くない。此有産階級と無産階級とは其間に嚴密なる區別はない、其人の働きた次第、勉強次第である。所が人種の方になると大分趣が違ふ。黄色い顔をして居る者はなか／＼白い顔には變らない。日本では色が白いと思つて居つても西洋へ行つ

て見ると矢張り黄色い。長くなれば少し白人化したやうな態度は見えますが、なか／＼同じにはならない。日本人はごうも同化しないから拒絶すると云ふやうな事を言ひますが、日本人は随分同化する、同化し過ぎる程同化する傾向がある、なか／＼ハイカラは極端である。唯顔色だけは、如何にハイカラでも變らない、ごうも仕方が無い。人種の方はさう急に變るものでない。それでありますから階級戦よりも人種戦の方が非常に重大なる意義を持つて居ると思ふ。故に此人種闘争と云ふ事は、是は攻究して見なければならぬ重大なる學問上の問題であると思ふ。

先刻も申しましたやうに、ごうも人間には根本悪と稱して——根本悪と云ふ名を附けなくても宜いが、兎に角悪い方面があつて、それがなか／＼取れない、

即ち成佛が出来ない。成佛と言ふと死んだ事と直ぐお考になりませんが、眞の意味は決してさうでない、成佛と云ふのは立派なる人格者に成る事を意味して居る。佛と云ふのは人格者と解釋すれば、惡の取れた所の人格者は即ち佛である。惡が無くなつて純然たる人格者になる、それが解脱でありますが、解脱したる人ばかりで社會を組織すれば自らそこに永久平和は實現される次第である。所が此惡の根が深い所に根ざして居る。そこで此惡を退治しなければ永久の平和に到達する事が出来ない。亞米利加の今度やつた事は、確に國際的の根本惡の現れで、之を撃退するにあらざれば永久平和に到達する事は出来ない。

世界大戦は永久平和に到達する爲の一の障礙物であります。あの害惡に打勝つた時に、一足飛に永久

平和に達したいと云ふ切なる要求の起りましたのがあの國際聯盟の絶叫であります。即ち永久に戰爭を杜絶して永久平和に到達しようと思ふ要求が、兎に角國際聯盟規約となり、尙ほ其結果として國際聯盟事務所をゼネヴァに設けて、斷えず目的を達しようとして居る事がなか／＼振はない。さう云ふ平和に向つての努力をやつて居る間に小さな戰爭は屢々起つて居るが之を止める力を持つて居らない。況んや今度の日米戰爭などを國際聯盟事務所で解決することが出来るや否や。國際聯盟事務所にはなか／＼それをするだけの勢力が無い。歐米何れの國と雖も公然正面から國際聯盟の主義には反對しない、併ながらごうもそれを餘り喜ばない。矢張り我儘勝手な振舞はうとする惡の力が強い爲に國際聯盟が振はない。

國際聯盟を主唱したのは前の米國大統領ウィルソンである。而して國際聯盟は成立したが、其主唱者たる米國は國際聯盟には加はらない。さうして更に華府會議を開いて軍備縮小を決議して、我が日本も其決議の通り行つたが、ごうも囁かれたとしか思へない。段々日本が戦闘力が無いやうになつたのを見て、そこで最後に此侮辱を加へたのである。餘程今後囁されないやうにせぬと、到底將來再び起つこの出来ないやうなことになるから、遠慮なる結果を考へなければならぬ。

併ながら、今直ちに戦争すると云ふやうな事は餘程考へものである、慎重に考へなければならぬ。若し日米の間に戦争をしようと云ふやうな事が起りましたならば、非常なる人命を相互共損するのであります。米國の損するのは姑く平氣であるとするも、我

になつた所へ、さア來い、とやつて來たのである、であるから今日はなか／＼重大なる時機である。此重大なる時機に逸まつてはいかぬ。重大なる時機に誤まつたならばこんでもない事になる。それに今では、日本が戦争をしようとすれば戦争の準備が直ぐ分ります。國際聯盟を脱退しなければならぬから、脱退をすれば、日本は始めるナと直ぐ分る。是は餘程注意が要る。敵に分らぬやうにしてやるのが東方の戦術軍略であります、是は孫子、六韜三略などに出て居る。あ、云ふやうな戦術軍略の書は世界には無い。段々獨逸あたりは斯う云ふ戦術に付て研究をいたしましたけれども、あの主義精神に付ては殆ど孫子に於て盡きて居ると言つても宜い。敵の不意に出なくては戦争に勝てるものではない。日露戦争の時矢張それである。東郷大將は艦隊を率ゐて旅順に行

が日本の、最も血氣旺んなる壯丁を澤山失ふと云ふことは餘程考へなければならぬ。併し萬已むを得ぬ時には仕方がないけれども、何とかして避けなければならぬ、平和なる解決法があれば其方法を講じなければならぬのである。其上に日本は、大震災を受けて、あの爲に辟易しないけれども、物質的にも精神的にも大打撃を受けたのでありまして、此際戦争をしようと云ふことは餘程慎重に考へなければならぬ。況んや國際聯盟に入つて居るのでありますから、突然戦争を起すと云ふことは出来ないやうになつて居る。却つて米國は、今日あることを豫期して居つたか、或は今日のやうな事を次第に實現しようと思つて居つたか、國際聯盟には加入して居ない、いつ戦争を起しても勝手次第である。我が日本は縛られて居る、手を縛られ足を縛られて活動の出来ないやう

つた、所が敵の艦隊は、居ることは居りましたが、將校は上陸して舞踊會に行つて居つた、其間に東郷大將はドーンとやつたのであります、戦争は始めが大事である、初めに敵の氣勢を降かんければならぬ。戦争を始めるナと敵に知られるやうでは駄目だ、始めるナと云ふので直ぐ準備をせられるやうではいけない、敵の不意に出ると云ふのが孫子の兵法である、愈々やり出すナと見られてはいけない。敵を威嚇する爲に虚勢を張るなれば、それなれば宜しい、之も一つの方法である。併ながら、東方の最上の兵法は戦はずして勝つと云ふことである、無手勝流である、是は孫子も説いた、老子も之を説いて居る。其次は已むを得ず戦ふならば、戦へば必ず勝つと云ふ見込を立てなければならぬ、十分に勝算を立て、起たなければならぬ。それから又、正々の陣を撃つ勿れ、堂

々の旗に向ふ勿れ、是が東方の兵法である。ベルダ
ンに於て獨逸はそれでやり損なつた。獨逸は正々の
陣堂々の旗を撃つたのであります。獨逸の皇太子は
五十萬の兵を率ゐて、是さへ陥れば一擧にして巴里
を衝くことが出来る云ふのでベルダンに向つたの
である、それで失敗した。さう云ふのを撃つてはな
らないと云ふのが孫子の兵法である。どうすれば良
いかと言ふと、背ろの方から、思ひも依らぬ間道を
經てひよつと頭を出す、或は横から撃つ、或は風雨
夜陰に乗じて戦をする云ふやうに、思ひ掛けな
い所から敵を襲ふのが孫子の兵法である。日本は昔か
ら孫子の兵法を應用した。元來孫子は支那から出た
のでありますけれども、其應用に於ては日本の方が
進んで居る、さうして遂に日清戦争に孫子の兵法に
依つて勝つたのであります。

の時代と違ひまして新しい時代であつて十八世紀
の事でありますから大分應用の出来るやうに具體的
に説いたものであります。それで此カントの平和論
と云ふものが大分影響しまして、次第にカントが説
いたやうに實現されて行く道程にある。カントの思
想が影響しまして、カントの思想の通りにやらうと
云ふ自覺が人類に起りまして、其やうにやらうとし
て居る。カントの永久平和論は、此人間社會の大方
針を示したものであります、此大方針に於て誤ら
ない以上、而して此大方針は法華經に説く所と一致
して居る。東西洋の思想が全然一致して居ると云ふ
事は實に驚くべき事である。法華經の中には、人類
の永久平和の眞理の含んで居る事を決して忘れては
ならぬのである。

そこで亞米利加人の誤謬である云ふことが明か

凡て日本は、支那の兵學にせよ經學にせよ、之を
採つて組立てたのであります。又西洋のものも採容
れました。滅茶苦茶に西洋崇拜になると國民の獨立
の精神が失せてしまふ。米國の正義人道の精神は既
に日本に這入つて向ふは失つて居る、今度は向ふの
長所を以て向ふの短所を撃つと云ふことになる、そ
こで精神的の戦争が必要であると思ふ。日蓮は精神
的の戦をやつた偉人である。北條氏の盛んなる時に
其幕府のある鎌倉に來つて精神的の戦をやつたので
ある。人間は精神的の戦をやる勢がなければならぬ。
どうしても向ふは精神的に誤つて居る。成程今日は、
正義人道平等を説いた所が容易に彼等は屈服致
しませぬけれども、結局は眞理に屈服しなければな
らぬものである。

カントが永久平和論を説きましたが、是は法華經

である以上は、精神的に種々なる方法を以て、此米
國人の頑迷不靈を糺さんければならぬ。必らず最後
には眞理が勝つ。堂々たる道德上の眞理を以て彼等
の夢を醒さなければならぬのであります。其爲には
今後非常なる懸賞を出しても構はぬ。いざ實戰とな
れば何十萬と云ふ多くの人命を損じ、何百億と云ふ
巨額の金を費さなければならぬのであるから、其百
分の一千分の一の賞を懸けても構はない。さうして
大いに米國民の誤謬を匡すことに力を用ゐたならば、
即ち曾て日蓮が鎌倉幕府の下に於て精神的に戰つた
あのやうな意氣組を以て米國民と戰つたならば、何
等かの効果が無くしてはならぬと思ふ。

併ながら諸君は忘れてはならぬ。どうしてもそれ
ではいかぬと云ふ時には是は已むを得ない、どうし
ても四圍の境遇萬已むを得ない、實戰より外はない

と云ふ時には仕方がない。國民が血湧くが如くにそれを渴望して來た時には實戦も亦已むを得ぬのであります。所が其萬已むを得ぬ時、茲に大いに注意せなければならぬのは、正しい目的に向つて戦はんければならぬ、正しい目的に向つての戦争、それは正義の戦争であります。曾て孔子は、春秋に義戦なしと言ひました。成程春秋には義戦は無い、矢張り歐羅巴の世界大戦と同様に、利益の爲に戦つたのでありまして、一つも義戦は春秋には見えませぬ。けれども我が日本は、幸に外國と戦争する時は、正義の爲に起つて戦つて居る、萬已むを得ない時に干戈を執つて起つて居るのであります。今度も米國の謬見は明かである、即ち偏狹なる私利我慾の感情に驅られてさうして我が日本人を排斥し、其他の有色人種を排斥すると云ふことは決して正義人道でなく、非

人道、非正義のやり方である。道德に矛盾して居る、眞理と反して居る事であるから、之に對して戦争をするに云ふ事は、是は邪惡を懲すのである、腐徳の戦である、腐徳の戦は義戦であります。且つ亞米利加は、非常に廣漠たる土地を領有して居る——此點に於ては英國も同じと言ふか、或はそれ以上と言つても宜い——土八であるインディアンを追ひのけて非常に立派なる廣い土地を占領して、さうして其土地に、白人は這入つても宜いが、有色人種は這入つてはいけないと云ふ斯う云ふ權利は何處から出て來たか。成程米國の法律憲法から言つたならば、排日と云ふ事も解釋し得らるゝでありませうけれども、抑も法律憲法其等のものに定める所の權利の根本觀念から言ふと怪しい。廣い土地を占領して居つて、有色人種は一切此中へ這入ることはならないと云ふ

事を主張し得る其權利は何處から出て來るのであります。ませうか。それでありませうから、確に今回の米國の上下議院の態度は誤つて居るから、先づ正々堂々と精神的の戦をして、何處までも戦つて彼等の頑夢の醒める所まで行くと云ふ決心をしなければならぬ。而して萬已むを得なければ實戦となるのであります。其時にはそれは正義の戦であります。義戦の場合には非常に勇氣が加はるのであります。不正不義では戦に勝つことは殆ど無いのであります。正義人道の戦には、物質の勝算以外に、數を以て計算すること出來ない精神の力が非常に旺盛となつて來るのでありますから、それで以て米國のやうな大國に對しても勝ち得ると云ふ希望が茲にある次第であります。諸君は決して失望してはならない。是迄我が日本は、大國と戦つて勝つて居る、即ち清國と戦ひ露國と戦

つた、清國は我が日本より十倍もある大國である——強國とは申しませぬが——露國も日本よりずっと大きく、六十何倍とか云つて居る、けれども其清國、露國と戦つて勝つたのであります。其物質的のものを計算すれば我の方が少ない、けれども勝つたのは何故かと言ふと、唯一つの精神、我が日本魂の一つで以て打勝つたのであります。日本魂が満ち／＼して、我が日本國民中に湧出づるに當つては、米國何がある、必らず勝つ見込がある。太陽一と度出づれば群星光を失すると云ふ結果を生するのであります。色々申したい事はありますけれども、大體の趣旨は述べましたので、あとで佐藤中將のお話がありま

日蓮主義より見たる無量義經

(第十七回)

井村日威

善男子以是義故一切諸佛無有二三言能以一音普應衆聲

(二二、七)

此より下は如來廣說段中の結歎の文である。前來如來所説の教法に就て、其根本を一法より發生したるものなるを説いて、教法の根源を示された、如來は根本の一法より説き出し給ふが故に常に一言にして二言三言は無いが、聞き手の衆生は各自の根性に随つて了解する上に差別を生じ、教法の上に分裂ある様に見ゆる、故に如來の教法は唯一なりと結ばれたのである、此は正宗分たる法華經進門に於て開三顯一を説いて教法の統一を宣示せらるゝ、其前略戦とも言ふべきである。此文は口輪の説法に就いて

言はれたので、次は如來の身輪の活動に就て口輪同様に開顯の必要がある、そこで次の文がある。

能以一身示百千萬億那由陀無量無數恒河沙身、一一身中又示若干百千萬億那由陀阿僧祇恒河沙種々類形。一一形中又示若干百千萬億那由陀阿僧祇恒河沙形

(二二、八)

一身を以て無量身を示し、又其無量身の一々の中に種々の類形、即ち十界の依正二報の相貌を示す、如來身輪の化益は其必要に應じて十界の所有ものに應同して其形を示現し應化を垂れらるゝこと、殆かも衆生の性欲に應じて、種々説法せらるゝと同様で

ある、今經は前來専ら如來の説法を主として説いたのであつたが、此處に來て三輪の妙化を明したは、正宗分法華經が、教法の開顯のみならず、本門に至つて如來の久遠を開顯して、久遠劫來の如來大慈悲(意輪の化益)を顯本し形聲二益(身口二輪の活動)の大化を明かした、今經は其序分として其端緒を開き置くべきであるが故に、此文は遠く本門の久遠開顯の序として如來の身密に就て説明したものである、此まで身輪の事が少しも説いて無く突然此處で斯様の文があるのは其處に遠く本門の開顯に就て意味するものあることを認めねばならぬ。

善男子、是則諸佛不可思議甚深境界非二乘所知亦非十地菩薩所及唯佛與佛乃能究了

(二二、三)

意輪を歎じた文である、身口の二輪の活動は意輪

より發した活動であるから、身口二輪の自在の活動は如來の證悟そのもの、勝れたるより發動せらるゝ處なれば、其證悟を歎じて不可思議甚深の境界と云ふた、此證悟は二乘菩薩の及ぶ能はざる處唯佛と佛とのみ究竟し給ふ處、他のものゝ窺ひ知ることの出来ない境界で、法華經壽量品に「如來秘密神通之力」と説き給ふ處である。以上如來の三密を歎じたのは此經の所説の教義を結歎したので、次に其教義を説いた無量義經を歎美した、

善男子、是故我說、微妙甚深大乘無量義經文理眞正尊無過上

(二二、五)

と説いた、其所説の教理甚深なるが故に、能説の教法尊無過上の正法なりと歎せられた、次に此經の方用を擧げて、

三世諸佛所共守護、無有衆魔外道得

入不爲一切邪見生死之所壞敗

斯の正法を説きし此經なれば、諸佛は守護し、惡魔外道は此に反對することは出來ず、一切の生死を突破して一切衆生を大菩薩に導くの教法なれば、

菩薩摩訶薩若欲疾成無上菩提應當修學如是甚深無上大乘無量義經

で、此經を修學すれば必ず疾く無上菩提を成辨し得ることを御示に相成つたのである。

佛説是已於是三千大千世界六種震動

自然空中雨種種天華(中略)歌歎彼佛及彼菩薩聲聞大衆南西北方四維上下亦復如是

(二三、末、二五、初)

此一段は第九隨喜供養である、如來の説法を聽聞して歡喜満足し諸種の供養を如來に捧げ奉るので、

供養は歡喜の情を形に依つて表はしたのである、此に此方の供養と他方の供養とある、必要の事柄で無い故經文は略引し且つ説明を省略する。

於是衆中三萬二千菩薩摩訶薩得無量義二味(中略)無量衆生發阿耨多羅三藐三菩提心

此一段は第十明得益で、此説法を聽聞した多くの菩薩達其他比丘比丘尼優婆塞優婆夷等が夫々其分齊に應じて利益を蒙つたことを説かれたのである、

此品は一品の中に得益を得ることまで擧げてあつて殆んど獨立した一經の如くに見えて居るが、此品だけ切離して見たのでは佛教の綱格は分らない、矢張り三品を通じて見て行かねば佛教も分らねば、無量義經所説の教義も分らない、此一段も必要の點なき故省略して、此で説法品は畢ることに致します。

記事

時局講演宣傳の旅

中國九州から、引返して東海道の各地を、更に北陸から信濃路へ

四十二年振りの大早稲に、キラ／＼と太陽は輝いて、炎暑は大地の底深く迄到散したと思はる、熱の地獄の最つ盛り、折角計畫された學生團の夏季宣傳旅行を無理に中止させて、そして立正精社として時局講演に邁つて呉れと頼んで来た、野暮な教務部長様だ。「道を宣傳せよ」それは誰から云はれても、やがて如來の塵しい御座なんだ、あはたゞしく旅装を整へて、中京東山の清寂なる淨境を出發した。

七月十六日夜、廣嶋縣吳の教會所に集つた眞經に道を求むる人達の爲に、時局の重大なる事と、日蓮上人の遺された聖訓とに就て説いた。此の教會を擔任して居る田中宣正師には、すつかり感心させられた、眞に氣持の好い僧を發見した事を、謹んで佛祖の御前に仰

禮を申上げたいと思ふ。田中師は元は教會所所屬の信者であつたが、教會所願慶の状況を默視する事が出来なくなつて、そして多分の僧も、どの僧も、末法の僧は道念が不充分で、これはた教會所を復興する事が出来なれないと思つたんだらう、(私の想像なんだが)遂に自ら出家して、自ら教會を擔任した。時、永い歴史を有する教會所は、數代續く末法の僧の不始末から、賣賣されてしまつて居た。貧乏な田中師は教會所買戻金の中へいきなり金貳百圓を献げた、それは汗と膏で貯蓄された尊いものだったのだ。少數で、且つ難敷しかけて居た僧者は、スツカ／＼感心させられて思ひ／＼に淨財を捧げた。危く救はれた吳教會所は、鐵の如き道念と、火の如き情熱とを有つた信仰の僧、田中師によりて次第に隆昌

に向はんとし、ある。田中師は生活の糧は他に求めて、信徒からの喜捨は、信仰を説いた小冊子に換へて、毎月施本を續けて居るそうだ。私は信徒眞鍋氏加賀氏等とも色々話をしたが、舊い歴史を有し、そして極めて樞要の土地である、此教會所はきつと立派に完成されるだらうとの確信を得た。

夜更けて吳を發し、廣嶋から山陽本線を、曉の頃小郡に下車、直ちに萩に向つた。想起す、十有五年前の春、恐ろしい暴風雨の中を人車で十六里の險路を突破したのだったが、今は自動車の上で、悠々自適、二時間半の郊外散策なんだ、かう云ふ點では物質文化にも發成してやつてよと思つた。熱烈なる紀野俊輝師の率ある萩の信徒は、やはり血と力との結晶であつた。十七日晝、折柄の豪雨を冒して妙蓮寺に集集した、二百餘の人達の爲に時局に對應すべき日蓮教徒の決心と覺悟を説いた。講演後は研鑽會員の人達と、火花の散る様な主義の話に、夜更ける迄。

十八日、紀野師と同道萩を發し、三門市の立正閣で、創立者中村勇吉氏の一週忌追悼會を修し、夜は了性院で講演。十九日下關市本行寺に於て山崎市長の配應で、本行寺と市社

會課との聯合の下々盛な時間講演會が開かれた。二十日欠米、二十一日渡瀬、特記すべき記事は無い。

二十二日夜門司市の信徒奈須野伊三郎氏宅で講演した。秋の終蓮寺裡家で門司に移住して居た福屋の御爺いさんがあつた、同じ日蓮の信者を押し求めて、關門の要地に正義の道場を得たいと發願し、其の方便として毎年奉三十日の間、寒修行に眼目を唱へつゝ、門司の町を巡つて居たが、遂に相知つたのが奈須野氏であつた。奈須野氏は元は念佛の家なんだが、當主の夫人が知人から勧められて次第に日蓮上人に接近する様になり、はては自分だけの信仰として、一室に日蓮上人の像を奉安する様になつた。念佛雜りの當主は到底之を許容しなかつた、熾度争が繰返された事やら……それと闘ひ夫人の決心は恰も孫の金山を贈するが如くつたのだが、偶々同家の次女が、昨年夏病を得て、若くして逝去した慈父は哀へ行く雙子の枕頭に座して、最後までな希望でも、愛子の願のまゝにならうと決心した、大阪から親しい文を招かうとしたり……死に行く若い娘さんは、いつか母に化せられて日蓮上人の信者であつたのだ、お父様

教「石井善雄氏」(所感)京藤布教師△廿三日蓮成寺にて立正結社講演會、廣略要に就て、利井田寛再氏、困難に處して「蘇井特命布教師、何れも會、熱心なる求道者に多大の感動を興へられたり。

備前和氣 七月十五日日本成寺婦人會「幸福なる生活」原田日勇△十六日同信會「幸福なる生活」原田日勇△二十日原田日勇今同本山部長に轉任の披露宴、來會者百餘名にて盛大を極めたり△二十四日日蓮主義青年會の發會式、研究者として集まれる人数十、由來毎月第一第三月曜日を以て開催日とし、大に各方面の運動を興すべしと、因にこゝは原田本山部長轉任の紀念として興せしものなりと△二十五日天淵修會原田師本山へ轉任披露送別大會、最後の講演「幸福なる生活」原田日勇△二十七日午前九時より永野吉原金谷氏宅にて講演、送別會、幸福なる生活「原田日勇△二十七日午後二時より可賀村平松義三太氏宅にて、原田本山部長送別の會講演、幸福なる生活」多數來會後別動隊全體を請願せざるも四名、原田師各家に出張顯微鏡を行ひ、好紀念として一般法悦に満ちたり△二十七日夜八時より豊田村佐々木宅にて送別會講演、

が私の爲に何でも云ふ事を聞いて下さるのなから、どうかお母様と同じに日蓮上人の教を信仰して、そして一家が本當に平和に暮す様に、と、娘が最後の言葉は素い聲であつた。父はとつ／＼も二もなく涙を捨てた。父と、母と、娘と、聲を合して、南無妙法蓮華經、々の母は、眞に愛敬即寂光土を益奈須野家の一室に現出したのであつた。奈須野氏單獨の主權で紀野氏が描かれて、本年春一度大講演會を開いたさうだ。丁度死なれた娘さんの命日だったので、私は度々其の靈前に御回向してそして集つた人達に、きつと門司に何等か願本の道場の建設される素因にもと、心中私に佛祖を祈りつゝ、熱心に、熱心に、本當の信仰を説いた。

二十三、二十四日廣嶋市本照妙院兩寺、二十五日吉田町靈華寺を最後に、引返して東海

各地教信

大坂堂閣寺教報 七月十二日、東西兩洋の文化を講じて東亞の使命に及ぶ「石井善

道に向つた。

八月五日、神岡縣三崎町本妙寺に於て、六日高祖兵第三聯隊將校下七團の爲に、同日、松野妙松寺に於て、七日見付玄妙寺に於て、九日豐橋妙判寺、十四日二川妙泉寺、十五日吉美妙立寺、十七日四日市安樂寺で講演した。二十一日福井縣の小濱町から、段々北の方へ越後の高田から長野縣を経て、一旦名古屋の自坊へ歸る頃には、咽喉も破れ、腰も折れてしまふかも知れない。(國友日記記)

本山部長交迭

多年其職に在りし藤原本山部長は、先般其職を辭し、權僧正原田日勇師が、和氣本成寺から出て、本山部長に新任せられた。施設見るべきものが多からうと、多大の期待を以て語つて御進へする。

雄氏「信仰に就て」上田智量師△二十二日、「西巻壇に就て」和井田寛再氏、社會主義と佛

「幸福なる生活」原田日勇にて、何れも最後の講演として發會を極め、愛別難苦の情又甚大なるものありと△三十一日夜八時二十分列車にて原田日勇師は多數各方面の人士女の見送り特に本山まで檀家總代同信會婦人會有志等五名隨行、入山すべく出發の途に就きたり。

金澤布教宣傳 七月一日午後二時於向山日蓮聖人銅像前、米國排日法案實施紀念講演、「時限として偉人日蓮を憶ふ」本郷常次郎氏△十一日午後八時於坂井氏宅「宇宙と國家師」本郷常次郎氏△十二日午後八時一談會講演「日蓮主義と困難來」本郷常次郎氏△十九日午後八時於三由氏宅「信仰と實踐」窪田純榮師△廿一日午後二時本覺寺益施院鬼「孟蘭盆に就て」窪田純榮師「靈魂不滅論」本郷常次郎氏△廿二日午後二時本長寺益施院鬼「孟蘭盆に就て」窪田純榮師、衆拜如霜露惠目能消除」本郷常次郎氏△廿六日午後八時於本長寺天晴會講演、「法華經授記品講義」窪田純榮師、「日蓮主義と國難救済策」本郷常次郎氏海軍中佐以下智識階級多數聽講す△廿八日午後二時本行寺益施院鬼、除世熱致法清涼」石橋會章師、「行學二道」窪田純榮師、「佛教の死生觀」本郷常次郎氏△廿八日午後八時立正會

講演「信仰と利益」本郷常次郎氏

千葉縣前ノ内 六月六日午後常覺寺に於て十二日講「醍醐味とは何か」中嶋元道師△十六日夜同所婦人會「沈黙は婦人の莊嚴なり」中嶋元道師△七月二日午後田中法光寺に於て青年修養會例會、其の一人を懐む「中嶋元道師」人格」高田日幡師△八日朝常覺寺に於て千俣會早起デ、午前四時半集合、境内掃除、体操、「訓話」成野先生、「お伽話」中嶋元道師△十二日午後、同所、十二日講「笑ふ門に福來る」中嶋師

羽前教報 聖母本覺寺に於て十五才以上二十一才以下の男子を以て組織した「信行會」は、六月中各週土曜日夜八時より十時まで、各會員の對話があり、後、日暮玄師師は「信仰」に就て講演した△現金寶藏寺に於て、六月廿九日少年少女會△聖母本覺寺に於て七月中信行會「佛陀」日暮玄師師△砂塚蓮藏寺に於て七月十三日婦人連の題目講△聖母本覺寺に於て七月廿七日日本縣寺院集會し、立正結社山形分會設立紀念法要を分會長日暮玄師師の下に慶修した△觀金寶藏寺に於て七月三十日明治天皇第十三周年追悼會を慶修後、少年少女の爲め童話をした。

日蓮教徒大會

立正教團聯盟主催の下に日蓮教徒大會は七月二十一日午後一時から、上野公園自治會館で開かれた、會する者一千五百、左の式次第大會は嚴肅に進行した。

- 一、國歌 戸山學校音楽隊
 - 一、安國誓拜願 臨田堯淳師
 - 一、支體三唱 本多日生師
 - 一、開會宣言 志村智監氏
 - 一、座長推薦 野澤徳吾氏
 - 一、決議文朗讀 三吉顯隆師
 - 一、各團體賛詞
- 座長には日蓮宗管長磯野日蓮師が推薦せられた。左記決議文が決議せられた。

大會決議文
 我が日蓮教徒は立正安國異休同心の遠祖を奉じ、僧俗男女を問はず、立正教團の結束を念とし、時局の重大なるに鑑み、之に善處するの覚悟を定め、嚴肅に左の事項を實行せんことを誓ふ。
 一、我が日蓮教徒は國民精神作興の聖旨を圓膺し、實踐窮行、以て國力を充實する事。

一、我が日蓮教徒は時局に對應する爲め沈痛を誦め、轉擧を慎み、以て知法思國の教風を發揚する事。
 一、我が日蓮教徒は浮華政權の弊、輕佻亂激の害を匡教する爲め極力奮闘し、至心に法國興隆の祈願を行ふ事。
 右決議す。
 大正十三年七月二十一日
 日蓮教徒大會

次で各團體の賛辭があり、時局大講演會に移る。

- 一、開會の辭 龜出孝潤師
 - 一、排日問題の教訓 野澤徳吾氏
 - 一、國運盛衰の分岐點に立ちて 志村智監氏
 - 一、日米問題と吾人の覚悟 佐藤卓藏氏
 - 一、國家の現状と日蓮教徒 本多日生師
- 以上

轉任披露
 倍舊の御厚情を乞ふ
 受知縣知多郡越前町越境寺
 三谷會善

廣告

日蓮宗法衣専門

諸種の準備が整ひましたから御注文品に就ては懇切町重に而も廉價で勉強いたし多年の御愛顧に酬るたう存じますどうぞ御用命を願ひます

東京市赤坂區一ツ木町八十六番地

柏屋 中山喜太郎

(市電)豊川稻荷前

海軍中將 佐藤鐵太郎閣下講演
 此際にあつる吾人の覚悟
 一、新金持氏(東京) 持氏(東京) 持氏(東京)
 初版二萬五千部に達し、再版五千部印刷中版に申込が殺到しました。出来上つた時には幾本幾何もありません、此際日本人中何人よりも佐藤中將の高見は、一番聴きたい聲ではありませんか、総版にならぬ内重疊申込んで下さい。

發行所
 統一圖書印刷
 名古屋市中區田代町城山
 電話五〇八〇・九〇

社寺建築用の安價提供

當所は社寺建築改善の目的を以て臺灣總督府、内務文部兩省の了解の下に臺灣檜材の安價提供及工事の設計又は監督の御依頼に應じ可申此間工事の大小に拘らず左記御便宜個所へ御相談被下度候
 追て設計規程並目安表等御入用の向は御申越次第呈上仕候

- 社 寺 工 務 所
 東京市麴町區有樂町三丁目三番地 (電話青山の六六三番)
- 社 寺 工 務 所 大 阪 支 店
 大阪市西區市岡町七十九番地 (電話西三三二四番)
- 社 寺 工 務 所 福 岡 支 店
 福岡市外堅箱町馬出松原 (電話二二三〇番)
- 社 寺 工 務 所 京 都 出 張 所
 京都市上京區廣道二條上 (電話上六三六番呼出)
- 社 寺 工 務 所 鎌 倉 出 張 所
 神奈川縣鎌倉由比ヶ濱町二百四十番地 (電話四十七番)
- 社 寺 工 務 所 鶴 見 支 所
 神奈川縣鶴見町芦穂崎

本多日生祝下施本用著書一覽

○法華經自我偈講義 金 貳 拾 錢

拾部 特價 金 壹 圓(送料共)

○法華經要文 並製 金 參 拾 錢
上製 金 五 拾 錢

○教育勸語と思想問題 金 貳 拾 錢

拾部 特價 金 壹 圓(送料共)

○國民精神の涵養 金 五 錢

參拾部 特價 金 壹 圓(送料共)

○佛教の概要 金 五 錢

參拾部 特價 金 壹 圓(送料共)

○うゐの奥山今日こえて 金 貳 拾 錢

拾部 特價 金 壹 圓廿錢(送料共)

以上各送料一部金貳錢

右講讀希望者は左記へ申込んで下さい

名古屋市東區田代町城山

統一編輯局

電話 東五四八七番
番替名古屋一〇八一九番

統一定價

一冊	一冊	一冊
金貳拾錢	金壹圓貳拾錢	金壹圓貳拾錢
送料五厘	送料共	送料共
送料五厘	送料共	送料共

統一廣告料

表紙一頁	表紙一頁	表紙一頁	表紙一頁
金貳拾錢	金拾錢	金九錢	金五錢
送料共	送料共	送料共	送料共
送料共	送料共	送料共	送料共

大正十三年八月十七日印刷納本、第三百五十四號

發行所 東京府荏原郡品川町南品川四百十二番地

不許複製

編輯兼 國友 日斌
印刷所 鈴木 日斌

發行所 名古屋市東區千種町字五反田五二番地

編輯所 名古屋市東區田代町字城山七十七番地

電話 東五四八七番
番替名古屋一〇八一七番

目次

國民覺醒の時	本多日生
勤儉貯蓄に就て	三矢宮松
震災と火防問題	松井茂
記事報導	……

第廿八年十月特別增刊
國力振興號

